

形が宿る瞬間
溶けたブロンズに

SPECIFICATION

KANAZAWA



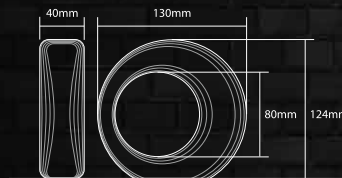
KARAKANE

LARGE/MEDIUM/SMALLの3サイズよりお選びいただけます。

※サイズ・重量については、固体系差があります。

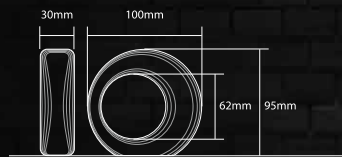
LARGE [2.1]

Weight : 2.12kg



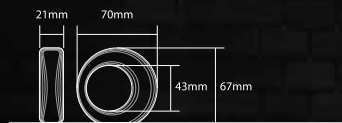
MEDIUM [1.0]

Weight : 1.00kg



SMALL [0.3]

Weight : 0.33kg



銅は人類が最初に使用した金属です。

その銅を素材として、藩政時代から続く金沢の美術工芸や伝統文化の美意識を受け継ぎ、新しい概念のデザインでモノづくりをしていく。それが金澤唐金です。

銅の特性について

銅は主に導電性、熱伝導性、耐食性、音響性に優れていることから日常生活の様々な分野で使われています。

また銅から発生する微量の銅イオンは人間にとって有害な細菌類を死滅させる性質があります。

現代社会において猛威を振るうO-157、インフルエンザ、ノロウイルス、アルツハイマー等に極めて有効な効果が確認されています。

2008年米国環境保護庁(EPA)より、「銅、真鍮、ブロンズなどは人体に有害な致死性のある病原体を殺菌し、公衆衛生に効果がある」という表示が法的に認可されました。EPAが公衆衛生に実際に効果があると認めた個体材料は銅が初めてのことです。

(一般社団法人日本銅センター HP より一部引用)

商品の取り扱い・メンテナンス方法について

製品に使用している銅合金の表面は、使用による擦り傷や打痕がつきやすい素材です。また経年による変色や黒ずみが生じる場合がありますが、本来の品質や銅イオン発生メカニズムには問題ありません。

湿度が高い状態で放置すると緑青を発生する場合がありますが、人体の健康には無害であることが厚生労働省の研究機関により証明されています。

定期的に「銅、真鍮磨き」を柔らかい布などに少量付着させメンテナンスすることをお勧めします。簡単に元の輝きに近い状態にすることができます。

いしかわ産業化資源活性推進ファンド事業「銅合金鑄物の特性を活かしたデザイン性の高い商品の開発と販路開拓事業」で「銅合金鑄物によるパーソナルギフト」として開発された製品です。



金澤唐金(株式会社明石合銅 内)

〒924-0011 石川県白山市横江町1484番地

TEL.076-276-5533

<http://www.kanazawa-karakane.com>



New Style Dumbbell

BRONZE Interior Decoration

Interior Decoration

お部屋のインテリアやパーソナルギフトに。



贈呈用にも最適な
ギフトパッケージ。



Presentation Ceremony

スポーツイベントや大会の
トロフィー・記念品として。



Fitness & Training

① フロントレイズ

肩(三角筋)前面部を集中的に鍛える定番です。ダンベル「環」を両手で持ち太もも付近から床に平行になるまで上げていきます。最初は直立や椅子に座ったポーズで行うと安定してトレーニングすることができます。慣れた段階で下半身のストレッチ動作も加えてみましょう。



② キックバック

二の腕(上腕三頭筋)の引き締めにも効果的なダンベルエクササイズです。前かがみになりダンベルを持つ肘を床に対して90度に曲げた状態から後方に向け伸ばします。初心者の女性の場合、1~2kg程度のウエイトで無理のないよう行ってください。



③ サイドレイズ

肩(三角筋)の中央部を集中して鍛える代表的な種目です。両手にダンベルを持ち身体に対して真横に腕を持ち上げることで肩を鍛えます。手首に力を入れず、ややぶら下げる感覚で肩が上がらないように行うのがポイントです。身体のラインを美しく変えることができます。

安全上のご注意点

- 次のような方は使用しないでください。重大な怪我や事故につながる恐れがあります。
- 小さなお子様 ● 妊娠中の方 ● 身体の不自由な方 ● 身体の筋や関節に異常がある方 ● 飲酒している方 ● 激しく疲労している方
 - 睡眠不足の方 ● 医師から運動の制限を受けている方 ● 上記に当てはまらない場合でもご使用に不安のある方

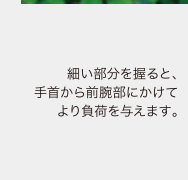
金澤唐金から
ニユースタイルダンベル
「環」の誕生です。

グリップ位置により 負荷が変化

円環をグリップする場所によって太さが異なるため、細い部分を持ちダンベルを保持しようとするれば、より大きな握力を必要とし、握力トレーニングになります。また握る場所により重心の位置が体の中心からわずかに離れたり近寄ったりすることから、筋肉負荷が変わります。このような微妙な変化もお楽しみください。



太い部分を握ると、
体への負荷が少ない
トレーニングに。



細い部分を握ると、
手首から前腕部にかけて
より負荷を与えます。